シリーズ
新々連載（第１話）

スクエアダンス概論

相談役　辻田　満

スクエアダンスサークルではスクエアダンスの動作の講習やマナーのお話しはしていますが、それ以外でもダンサーの知識として必要と思われることはたくさんあります。それらの事柄を知ればきっと今以上にスクエアダンスに興味を持つようになるでしょう。そこで、以前私が日本フォークダンス連盟の全国講習会の全体講義の中でお話した内容をスクエアダンス概論として4回の連載で皆さんにご紹介したいと思います。今回は第１話として「SDの歴史的背景（米国と日本）および「CALLERLAB」のお話です。

1. SDの歴史的背景（米国と日本）

１７世紀初期に祖国ヨーロッパで、圧迫・貧困・異教徒迫害等に苦しめられた人々がアメリカに渡って自国のコントラ・ダンスやカドリールを変化させて、後にスクエアダンスを作り上げたといわれています。

当時、イギリスやフランスは特に政府の絶対主義の進展とならんで、植民地活動も盛んで異教徒に対する迫害から逃れ、自由な信仰と政治活動を求めて1620年にメイフラワー号でアメリカに渡り、ニューイングランドを建設した清教徒がその代表的な人々です。

ニューイングランドへ移住して来た人々によって、ヨーロッパで踊られていた宮廷風の優雅なカドリールがニューイングランド・カドリールとして発展し、今日のスクエアダンスの基礎が作られました。

一方、南アパラチアのケンタッキー山脈の山奥に移住した農民達によって故国イギリスからもってきた古い形のフォークダンスがケンタッキー・ランニング・セットとして踊り継がれ、これが今日の西部でみられるパターコールの元祖と言われています。

そして、近年アメリカ西部では優雅に幾何学的な基本動作と、その任意の組み合わせをコーラーのコールにしたがってリズムに合わせて踊り、意外性と都会的センスを加味したものに改良され今日のモダン・スクエアダンスの誕生となったのです。戦後約10年間の小さな変化が、古い伝統的なスクエアダンスを新しい型のモダン・スクエアダンスに変えることになったのです。

さて、日本では1946年（昭和21年）12月に長崎軍政部のウインフィールド・P・ニブロ氏によってスクエアダンスが紹介され、長崎県から九州一円にスクエアダンスが普及していきました。

１949年（昭和24年）2月札幌で開催された第20回宮様スキー大会に三笠宮両殿下がご臨席された折に、ニブロ氏によってスクエアダンスが紹介されて、両殿下が始めてスクエアダンスを踊られました。

これが、ニブロ氏が日本におけるスクエアダンスの父と称される所以です。ニブロ氏は1951年（昭和26年）に帰国されてましたが、その功績が讃えられて1982年（昭和57年）に日本国から勲三等瑞宝章の叙勲を受けられています。

柳田亨氏は人事院でレクリエーション関係で活躍され、英語に堪能でニブロ氏の通訳を始め日本におけるフォークダンス、特にスクエアダンスの普及発展に寄与されました。1966年（昭和41年）に日本スクエアダンス協会（1980年発足）の前身となる全日本スクエアダンス指導者連絡協議会が発足し、柳田氏が会長に就任しております。

2.　CALLERLAB

CALLERLABは1974年に米国において設立されたほぼ2000人のコーラーを会員とする国際組織（THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF SQUARE DANCE CALLERS)です。CALLERLABの規格は今世界で踊られているスクエアダンスの国際規格となっております。主なる活動は以下の通りです。日本で踊られているスクエアダンスは全てがCALLERLABの規格で踊られています。したがって、日本でSDを習得すれば世界各国でＳＤを楽しむことができます。

1）今から30年前に規定したダンスプログラムによって世界中どこでもスクエアダンスが共通に楽しめるものになりました。

２）コールの定義について国際間での考え方の統一を計りスクエアダンス動作の定義を制定しました。

3）ダンサーおよびコーラー向けの技術資料を発行し、世界中の団体を含めいたるところのダンサーおよびコーラーに利用されています。

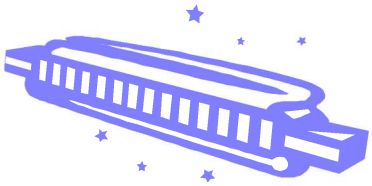
4）スクエアダンスの普及に対して多くの委員会組織を作り調査分析を行っています。

5）コーラーの育成に向けたコーラーコーチプログラムを作ると共に、指導者育成の為の講習会を開催しています。

6）米国の音楽著作権協会の代行業務を行っています。

7）年に一度ナショナルスクエアダンスコンベンションを開催し、世界中の愛好者が一同に集いスクエアダンスを楽しんでいます。

（第２話に続く）



新々連載（第2話）

スクエアダンス概論

相談役　辻田　満

スクエアダンスサークルではスクエアダンスの動作の講習やマナーのお話しはしていますが、それ以外でもダンサーの知識として必要と思われることはたくさんあります。それらの事柄を知ればきっと今以上にスクエアダンスに興味を持つようになるでしょう。そこで、以前私が日本フォークダンス連盟の全国講習会の全体講義の中でお話した内容をスクエアダンス概論として4回の連載で皆さんにご紹介したいと思います。今回は2話として「マナーを考える」および「ダンス取得のガイドライン」のお話です。

2.　マナーを考える

(1). フォークダンス綱領

マナーを考える時「・フォークダンスは皆のものである。・フォークダンスは楽しむものである。・技術よりパーソナリティーが大切である。・レクリエーションの立場から考えることが必要である。」と言う4つの概念と密接な関係があると言えます。これらの概念を要約して、日本のフォークダンス活動の倫理規定が昭和41年に「フォークダンス綱領」として制定されていますので、ここにご紹介致します。

フォークダンス綱領

レクリエーションとしてのフォークダンス（含む日本民踊）は皆で楽しく踊れることが特色である。

これを健全な形において発展させるには愛好者自身の自覚とりっぱな社会人としての態度で生活を導く基とし、踊る環境の清らかなことが必要である。

ここでフォークダンスがあまねく普及し、すべての人のものとして進展することを希いフォークダンス綱領を定めた。

①. フォークダンス愛好者は、フォークダンスは皆で楽しむものだということを念頭おいて行動すること。

②. フォークダンス愛好者は、つねに明朗で相手を尊重しつつ自分も楽しむこと。

③. フォークダンス愛好者は、フォークダンスを行うことによって物質的な利益を得ようという考えはもたないこと。

④. フォークダンス愛好者は、自分達が楽しむために使用する公共施設を大切にすること。

⑤. フォークダンス愛好者は、所属する団体の規則を遵守し他から批判を受けないよう行動すること。

(2). スクエアダンス十則

私達スクエアダンス界にはマナーをより具体的に表現した「スクエアダンス十則」があります。これはアメリカにおいて思いやりと礼儀を基本とした最も大切なルールとして作られたものです。そして、この基本ルール（Ground Rules）は今なおスクエアダンスの楽しさを永続させる為に最も基本的なルールとして全世界の愛好者に守られ続けられています。私達はこれら十則の意味を十分に理解した上で,これらをマナーとしてではなくルールとして守って行くことが大切です。

第1則 よく耳を傾けよ。(Be a good listener)
第2則 セットを早く作れ。(Get into squares quickly)
第３則 礼儀正しくあれ。(Be a courteous dancer)
第4則 時間を守れ。(Be on time for class and club)
第5則 考え深くあれ。(Be a thoughtful dancer)
第６則協力を惜しむな。(Be a cooperative dancer)
第7則 ムリをするな。(Take it easy)
第8則 友情を深めよ。(Be a friendly dancer)
第９則常に学べ。(You're never through learning)
第１０則 ほほえみをもて。(Enjoy yourself - have fun)

4. ダンス習得の為のガイドライン

CALLERLABではダンス習得の為のガイドラインを定めています。これはダンスプログラムを進める上での注意事項として定めたものです。ここでは、明確に「次のプログラムに移ることは、今のプログラムを習熟するに対して何の取り柄もない方法であることを知ること」が明記されています。
以下にその概要を紹介します。

1). 現在踊っているダンスプログラム及びそれ以前に覚えたプログラムの資料を完全に理解していること。

2). コールに応じた動作を踊るのに必要な身体の反応があること。

3). 現在踊っているプログラムをいろいろなコーラーのコールで踊った経験があること。

4). 現在踊っているプログラム、及びそれ以前に覚えたすべてのプログラムにおいて、コールに応じた動作を定義に従って踊ることが出来ること。

5). 現在踊っているプログラムのコールに反射的に反応して踊れるようになるまで充分な時間を掛けて、経験の場を踏むこと。(これに要する時間は個人によって異なります。)

6). 現在踊っているプログラムのダンスにおいて、実際の場でダンサーを手助けすることが出来ること。

7). もっと複雑なダンスの内容を切り開きたいという興味が、次のプログラムで見つかったこと。

8). 新たなプログラムを習得する時間の十分取れること。

また、これに加えてアドバンスやチャレンジのプログラムの習得を目指すダンサーに対して以下の2項目を加えています。

1). フォーメーション(体型)やフォーメーション内の自分のポジション(位置)を認識できること。

2). コンセプト(概念)を理解し、馴染みの薄い場面においてもコンセプトを応用できること。

(第3話に続く)

シリーズ

新々連載(第3話)

スクエアダンス概論

相談役　辻田　満

スクエアダンスサークルではスクエアダンスの動作の講習やマナーのお話しはしていますが、それ以外でもダンサーの知識として必要と思われることはたくさんあります。それらの事柄を知ればきっと今以上にスクエアダンスに興味を持つようになるでしょう。そこで、以前私が日本フォークダンス連盟の全国講習会の全体講義の中でお話した内容をスクエアダンス概論として4回の連載で皆さんにご紹介したいと思います。今回は3話として「コーラーの活動規範」および「コスチュームに関する見解」のお話です。

5. コーラーの活動規範

CALLERLABではコーラーとして活動する上での規範を定めています。以下にその概要を紹介します。

1). ダンサーに対する義務

ダンサーのもつ潜在力をフルに発揮できるようにダンサーを導き、ダンサーがこの活動から最大限の満足と楽しみを引き出せるよう、情報、指導及びリーダーシップを提供する。

2). クラブ組織に対する義務

健全で品位あるクラブ組織の発展と維持に協力し、力の限りこの義務を果たすことに努める。また、クラブに対して、賢明かつ率直なアドバイスをすることにも努める。

3). 指導者に対する義務

各リーダー、講師及びコーラーについて、個人の威厳を尊重する。また、自分自身も、高潔な個人であることによって、良い評判を保つように努める。

4). 活動全体に対する義務

個人的、仕事上または社会的な交際において、常にこの活動の伝統とその将来について意識し、それに相応しい行動をする。

5). 研鑽に対する義務

定められた用語等を忠実に守り、また能力の限り、スクエアダンスの動作を総合的に学び、指導し、貢献することに励む。

6). 関連する組織に対する義務

組織での様々な場面において、協力の精神を発揮する。

7). 責任ある行動に対する義務

ダンスを定刻に始められるよう、会場には十分な余裕をもって到着する。趣味の悪い言葉を使ったり、ダンサーを困らせるような冗談は言わない。公表されたダンス・プログラムの方針を

守り、これに変更を加えない。

6. コスチュームに関しての見解

1999年米国のスクエアダンス関連組織が一同に会してNCSDOなる組織が結成され、スクエアダンス活動における様々な問題が話し合われました。その中でコスチュームに関する検討がおこなわれ、その検討結果を受けて日本スクエアダンス協会では以下の見解を出しています。

1). ダンスはコスチュームを着て踊るのが原則です。スクエアダンスは歴史をもった踊りです。アメリカの文化や時代の流れの中で、音楽、コスチュームまたコールのスタイル、基礎ステップ等が変化し今日に至っています。どの国のダンスでも音楽、衣装はその踊りを象徴するものとして切り離す事ができません。すなわち、スクエアダンスを踊る時は原則としてコスチュームを着用しましょう。

2). パーティーはコスチュームで…

コスチュームを着用することで会場の華やかさは一変します。

ダンスの楽しさ、リラックスした気分、これらはコスチュームによって更に盛り上がるでしょう。パーティーにはコスチュームを着用しましょう。

3). しかし、こんな時は…

通勤時等にコスチューム、パニエの運搬は大変だ！夏は会場が暑くて！ビギナー生にコスチュームを理解してもらう迄は！等々クラブによってはいろいろな理由で常にコスチュームの着用が難しい事もあるでしょう。そんな時は皆さんでよく話し合って臨機応変に対応してもよろしいのではないでしょうか。

（第4話に続く）

（イラストは東京スクエアダンスクラブHPよりコピーしました。）

新々連載(第4話)

スクエアダンス概論

相談役　辻田　満

スクエアダンスサークルではスクエアダンスの動作の講習やマナーのお話しはしていますが、それ以外でもダンサーの知識として必要と思われることはたくさんあります。それらの事柄を知ればきっと今以上にスクエアダンスに興味を持つようになるでしょう。そこで、以前私が日本フォークダンス連盟の全国講習会の全体講義の中でお話した内容をスクエアダンス概論として4回の連載で皆さんにご紹介したいと思います。今回は最終話として「スタンダードアプリケーション」および「セットを壊さない為のルール」のお話です。

7. スタンダードアプリケーション

コーラーは常にコールの組み立てにおいてスタンダードアプリケーションとエクステンドアプリケーションの区別を承知した上でコールしなければなりません。以下にスタンダードアプリケーションを理解する上で大切な事柄を列挙します。

1). 何よりもまず動作の組み立てがダンスの流れをスムーズにする最大の要因となることを知らなければなりません。

2). 組み立ての持つ複雑さを良く知り、自分の組み立てが時としてセットを壊す危険性があることを知らなければなりません。

3). コールが原因でセットが壊れる理由は2つあります。

①. ダンサーがキチンと適切に教えて貰っていないこと。
②. コーラーの組み立てが難しすぎること。

4). ダンサーが上手に踊れる組み立てとそうでない組み立てがあります。

5). ダンサーが気分良く踊れるフォーメーション(体型)とアレンジメント（男女の並び)があります。

6). ほぼ100%のダンサーが踊れるフォーメンションとアレンジメントをスタンダード(標準)として整理しています。

7). 但し、スタンダードがコールすべき例で、それ以外はコールすべきではないと言うことではありません。

8). スタンダードに限定してコールをすると時としてつまらないコールになってしまいます。

9). 要はスタンダードとそれ以外を良く理解して「使いどき」を心得てコールすることが肝要です。

10). スタンダードのポイントは2つあります.

①. ある決まった体型と男女の並びからのコールはダンサーはよくなじんでいる。
②. そんなに頻繁にコールされなくても壊れずに踊れるものもある。

11). 定義にあるから何でもコールしてよいもの

ではありません。コーラーは常に T.P.O. を十分に判断してコールしなければなりません。

８．セットをこわさない為のルール

ダンスの楽しみを高める為にＥｄ　Ｆｏｏｔｅ氏は「ＴＩＰＳ　ＦＯＲ　ＢＥＴＴＥＲ　ＤＡＮＣＩＮＧ」（よりよいダンスを踊る為に）と題してセットをこわさない為のルールを取りまとめています。以下にその概要を紹介します。

１）．セットをこわさない為に

①．隣りの人と直ち（０．５秒以内）に手をつなぎましょう。
②．セットを小さく保ちましょう。
③．常に顔を上げて踊りましょう。
④．壁と平行にセットを作りましょう。
⑤．迷子になった人は手信号で助けましょう。
⑥．正確に動いた事が確かであれば他の人に動かされてはいけません。
⑦．経験の深いカップルは向かい合ってセットに入りましょう。

２），もし完璧にわからなくなったときは

①．回転してはいけません。
②．身体の向きを変えてはいけません。
③．うろついてはいけません。

３）．セットがこわれてしまったら

①．男性の右側にパートナーを連れたＦａｃｉｇＬｉｎｅをつくりましょう。
②．コーラーがＦａｃｉｎｇＬｉｎｅを作ったら再び踊り始めましょう。

４）．正しく覚えるために

①．ポジションで覚えず、定義を理解しましょう。
②．　コーラーの説明は静かに聞きましょう。